

ずいそう



人を見たら神様と思え

京 免 継 彦

テレビドラマや小説で、知的障がいを持つ方を主人公にした物が時々ありますが、私は見たことがほとんどありません。というか意識的に避けてしまいます。理由は「なんか違うなあ」と、いつも思ってしまうからです。なぜそう思うかと言うと、実は身近に障がい者がいるからです。もう結構長いこと付き合っているのです、どうという事はありませんし、この「ずいそう」の主題はそこではありませんのでご心配なく。

この手のドラマの場合、大抵、主人公の内側を美化した形で描かれるようです。もちろん、そうじゃないと物語にならないとも言えるわけですが。対して、普段付き合っている自分からすると、そこが一番しっくりきません。もちろん美しくないと言っている訳ではありません。障がいというのは、その人の全てではありません。あくまで部分です。この事は付き合っていく上で一番大切なところなのです。そしてもう一つ大事なことが、もし、その障がいの部分を取り除いたら、その人には何が残ると思いますか？

実は、ごく普通の人が残ります。

普通にもいろいろ幅があるわけですし、優しい人もいれば短気な人もいますし、勇気のある人もいれば、少し臆病な人もいます。要は何か特別な人が残るわけではないという事です。なので、障がい者と一緒に歩んでいる人はここを履き違えると、困ったことになりやすのではと感じています。

という訳で、ドラマは見ませんでした。

ところが、先日、ある大手スーパーで、ちょっと頭を軽く「小突かれた」様な出来事に会いました。これが今日の本題です。

彼はいつも朝早くにそのスーパーに現れます。身長は高く 180cm は超えてそうです。無精ひげで判りにくいですが多分 20 代でしょう。身なりと履物は、かなり残念な物です。ヨレヨレの T シャツと穴の空いたズック、カバン代わりのビニール袋を下げて、いつもそそくさと買い物を済ませてどこかに帰っていきます。

我が家も買い物は朝早くと決めているので、何度か彼に遭遇したことがあります。そして彼の立ち居振る舞いからすると多分少し障がいがあると思われます。

で、今朝も彼に出会いました。彼は買い物を済ませた後、スーパーにある催事場広場のソファに座りました。私と奥様は真向かいのソファに座って、食品街以外の店舗がオープンになるのを待っていました。私は何気なく彼を見ていたわけですが、彼は財布代わりのチャック付きビニール袋から、買い物で出た小銭だけを取り出して、数えています。そしておもむろに立ち上がり、スタスタと歩いて行き、何をするのかと思ったら、そのままその小銭たちを全て何かの「募金箱」にジャラジャラと入れて、何事も無くスタスタとスーパーから出て行ってしまいました。思わず奥様と顔を見合わせてしまいました。

彼がどこの何者なのか、もちろんわかりません。彼が何故、そんな事をしたのかもわかりません。保護者の方から指示されていたのかも知れません。その前にそんな事でびっくりする私たち夫婦がおかしいのかもしれない。でも、ちょっとした事です、自分の中に、ちょっぴり恥ずかしさを感じた出来事でした。

先日、これも奥様と別のスーパーに買い物に出た時ですが、愛車の軽自動車の運転席から、交差点を渡っている彼を見かけました。以前のスーパーからは結構離れています。相変わらずの格好で、買い物袋を腕に下げ、スタスタと歩いていました。かなり遠くから来ていたことがわかりました。なにはともあれ「いつもの彼」でした。

別段、前段で書いた事と違っているわけでは無いし、相変わらずドラマは見る気がしませんが、やっぱり俺って「半可もん」とごく軽いため息な出来事でした。

今回のずいそうの題名を考えていたとき、たまたま目にした本の題名が「人を見たら神様と思え」だったので使わせていただきました。